長洲町立長洲小学校　校長便り　№１２３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１０月１０日(火)

【雑感】

先日は、娘の結婚式だった。コロナ禍による先送りで、入籍から約２年半の時間が流れていた。親としては少々不憫な思いをさせていたので、ようやく肩の荷が下りた気分だ。花嫁の父という立場なので涙ぐむ場面もあったが、式が終わり一息ついたところでふと思い出した娘からの両親に対する感謝のメッセージの一節。

「父を尊敬しています。」

嬉しく思うものの、「自分は本当に尊敬に値する父をやってこれただろうか?」という永遠に考え続けることになるであろう問題を突き付けられた。娘には言えない、多くの失敗と後悔の連続が私のこれまでの人生だ。本当に言えないこともある。それを考えると恥ずかしさで一杯である。

娘のこれから先の人生、私のような失敗や後悔はしないで欲しいものだ。娘の姿を見ながらある歌が思い浮かんだ。

「風も吹けば　雨も降る
女の道よ　なげ険し
君を頼りに　私は生きる
ここに幸あり　青い空」

娘と娘が選んだ伴侶と、今後予想される「風や雨」に力を合わせて乗り越えて欲しいと願っている。

修学旅行の思い出　その②

修学旅行の楽しみの一つに、「夜の自由時間」がありますが、なかなか最近は学習の要素が強く(学習なので当然ですが…)、自由時間はホンの少ししかありません。今の修学旅行では子供達の自由時間は2時間程でしょうか。だから、子供達はすぐに寝てしまうということは始どありません。布団の中で他愛の無い会話を続けているので、見回りの先生から叱られることもあるのですが、それもまた思い出になったりします。私の小学校時代、プロレスや布団の中でも騒いだりしていたのですが、とうとう先生に見つかって、私を含む5名ほど部屋の前の廊下に正座をすることになり、先生のお話を聞くことになりました。でも、叱られるかと思いきや、内容は世間話でした。先生の世間話というのは結局、私達がやっていた他愛のない話と同じで、私達はその話を聞きながら、「やっぱり先生もそうなんだ～。」と妙に納得し、先生に対して親近感が深まったりもしました。私の５・６年の担任の先生は独身の先生だったので、私達の秘密の話も聞いてくれました。暫くすると別の先生（多分、学年主任の先生）がやってきて、その先生が怒られたりして、私達子供は「怒られちゃった…。」とか心の中で笑ったりして、結局先生も私達も寝たのはずいぶん遅い時間でした。結局、2日目の朝は起きるのがとても辛く、目的地までのバスの中、眠っていたということしか覚えていません。でも楽しい修学旅行でした。６年生のみなさんは、私と同じような経験をする人はいないでしょう。眠るくらいならともかく、2日目に体調を崩して、見学できなかった…、これだけは避けて欲しいですね。修学旅行は学習の一環です。実り多き、そして掛け替えのない時間となるように、しっかりと事前学習や準備をして欲しいと思います。

シリーズ「自分を語る」#１２３

ある日校長室に呼ばれ・・・、「主幹、学級のサポートお願い。」　私は命令に従うしかありませんし、学校の非常事態という危機感を持ちつつ、不謹慎にも子供達との出会いを楽しみにしていました。

さて、出会いの日、というより以前からサポートはしていましたので全員知っています。最初にしたことは、乱れていた生活のルールを取り戻すことから始めました。あっという間にルールは徹底されました。私は何か特別なことをしたという訳ではありません。「是々非々」と「凡事徹底」を通しただけです。「たったそれだけで?」と当時の先生方は言いましたが、本当にそれだけしかやっていません。経験的に培った「やるべきこと」をやっただけでした。何が達成感があったということもなく、いつも担任の時にやっていたことをやったのです。それからは楽しかったですね。２年生の子供達と昼休みには毎日遊びました。６年生の子供達も本気で遊んでやると喜ぶのですから、２年生ならば尚更です。大喜びで毎日学校に通ってくれました。当時の担任の先生には「俺がやっていることを、真似しきるもんだけ真似してみて。」と伝えました。なかなか全部真似することは難しいようでしたが、その先生は一生懸命子供達に向き合い、その後安定感を取り戻していきました。

そんなこんなで1学期が終わり、夏休み中は何をしていたのかよく覚えていません。主幹教諭の仕事って何?ということを考えるために本をたくさん読んでいたことは覚えています。部活動もなく、担任もなく、来る日も来る日も事務整理が続いて夏休みでした。

２学期が始まりました。またまた、問題が…。今度は別の学年です。1学期と同じような状況が発生したようです。今回はあまり詳しく書けませんので、ザッと説明しますと、子供達とも保護者とも信頼関係が崩れてしまったようでした。お互い人間ですので軋轢が生じるのは仕方ありません。そこで面と向かってのコミュニケーションあって誤解が解け、信頼関係が構築されていくのですが、その時はそれをきれなかったようでした。いつものように校長室に呼ばれ、命令を受け、学級へ。実態として、授業が進まない、成り立たないという状況がありました。まずは計画通りに授業を進めることと、改善すべき点について子供達に指導し明確な行動変容を指示しました。

この時も時間をかけることなく、学習に向かう力も高く、すぐに授業進度も他クラスに追いつきました。ただ、このクラスにはいわゆる「ガキ大将」がいました。ガキ大将の存在は精力善用ができれば、学級を引っ張っていくリーダーとなり、逆であればどこまでも学級を崩していくことになります。この子をコントロールすることが鍵だと感じた私は、タイムリーに学級会を開きました。困っていることや、やめてほしい言動を学級会の議題として取り上げ、民主的に解決させたのです。担任が「それはダメやろ!」でも良いのですが、それでは自治的能力が育ちません。更に、ガキ大将の影響力で「正義」が通らず、真面目な子供が発言できない状況があったのです。私は、その子達が安心して発言できるように、不安や恐怖にも寄り添いました。「いつどんな時でも、正義を貫く姿勢は全力で守るよ。」この一言がそれまで黙っていた子供達の心に火を点けたようです。「○○君、こんなことはしないでください!」　最初、にやにや笑っていた○○君は、皆から民主的なダメ出しをくらって、とうとう泣き出してしまいました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）